本丸整備完了

【独眼竜】に繋がる歴史が始まる ココがスゴイ！ 桑折西山城

戦国時代、東北地方最大の大名伊達氏の本拠地であった桑折西山城（高館城）。今月いよいよ、本丸の復元工事が終わり、城主伊達稙宗が政治を行っていた山城の中枢部が姿を現します。伊達氏の内乱「天文の乱」の舞台となった桑折西山城の凄さを紹介します。

point 1 東北最大の大名の本拠地だった

戦国大名伊達氏の本拠地として築かれた山城

いまからおよそ四九〇年前、桑折西山城は、「独眼竜」伊達政宗の曾祖父稙宗（たねむね）により、戦国大名伊達氏の本城として築かれました。当時、伊達氏は、福島県から宮城県、山形県にわたる広大な領土を持ち、その実力は、なんと室町幕府から陸奥国守護職に任じられるほどでした。

伊達稙宗は、桑折西山城で、戦国家法「塵芥集（じんかいしゅう）」の制定や、周辺大名との「養子縁組・政略結婚」の政策を行いました。実際に、家老たちと署名することにより行われた「塵芥集」の発布や、稙宗の息子を養子にもらい受けに来た上杉氏の家臣たちと会談し、上杉氏より贈られた伊達氏家紋「竹に雀」の元となる家紋を拝領したのも、この建物内で起きた出来事である可能性が高いと思われます。それでは、戦国時代の山城にタイムスリップしましょう。

【だて たねむね】
伊達 稙宗
[1488-1565]
伊達氏14代当主。内政と外交ともに長け、「独眼竜」政宗の繁栄の基礎を築いた
（仙台市博物館蔵）

【伊達氏系図】①朝宗―②宗村―③義広―④政依―⑤宗綱―⑥基宗―⑦行朝（行宗）―⑧宗遠―⑨政宗（大膳大夫）―⑩氏宗―⑪持宗―⑫成宗―⑬尚宗―⑭稙宗―⑮晴宗―⑯輝宗―⑰政宗

桑折西山城の「正庁」と言うべき本丸の中心建物。重臣たちが控える囲み部分の上座に稙宗が座っていたとみられる

point 2 稙宗政治の舞台残る

稙宗が座った場所まで分かる

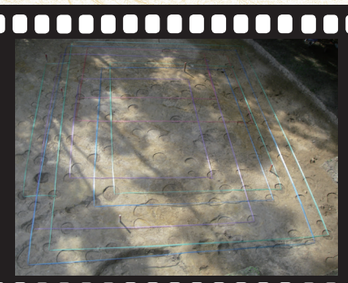
戦国大名の本城数あれど、実際に大名が政治を執った建物が分かっている城は、多くありません。桑折西山城は、稙宗が会議などの政治的な儀式を行ったり、他の大名が訪問して来た際に彼らを歓迎したりする空間の跡が残されています。

point 3 親子が争う戦国の世

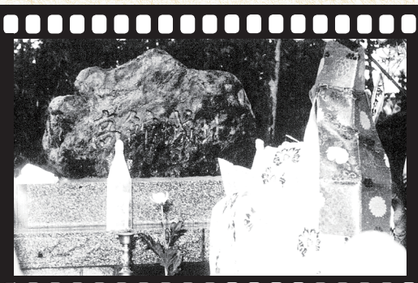
独眼竜につながる歴史がここに

桑折西山城は、稙宗と跡継ぎ息子の晴宗が争った「天文の乱」の戦場となりました。合戦に勝った晴宗は、本拠を米沢に移し、桑折西山城は廃城に。しかし、城の一部は後に改修され、伊達政宗が豊臣秀吉との決戦に備えて築いたとも考えられています。

間取りが復元された本丸中心建物



発掘調査で見つかった建物跡



文化財保存会が建立した高舘城址碑

城跡遠景（大正から昭和前期頃か？）

KOORI NISHIYAMA HISTORY

- **1532**（天文元年）●この頃、伊達稙宗、本拠を梁川城より桑折西山城に移す。
- **1536**（天文5年）●伊達稙宗、家法「塵芥集」を制定する。

「塵芥集（村田本）」
仙台市博物館蔵

- **1542**（天文11年）●伊達稙宗、上杉家への養子縁組を結ぶ。嫡男の晴宗、これに反対して稙宗を幽閉。天文の乱始まる。
- **1546**（天文15年）●伊達稙宗、西山城を奪還する。
- **1548**（天文17年）●室町将軍の命令で稙宗・晴宗が和睦。その条件として桑折西山城は壊されて廃城となる。晴宗は、本拠を米沢に移す。
- **1590頃**（天正18年）●桑折西山城の中館・西館、この頃に改修されたか。
- **1868**（慶応4年）●西山城跡の一部に砲台が築かれる。
- **1969**（昭和44年）●桑折町文化財保存会が高館城址碑を建立。
- **1990**（平成2年）●国の史跡に指定される。
- **2016**（平成28年）●史跡整備工事が開始される。
- **2021**（平成33年）●史跡公園開園予定。

町歴史案内人
齋藤 知子さん

桑折町は、今やこんなに穏やかな町並みなのに、かつて伊達氏の大きな戦いがあったなんて想像できない方も多いのではないでしょうか。しかも、親子軍の対峙というところも、またロマンを感じます。今回の本丸の復元工事により、見晴らしが良くなり、間取りなども明らかになりました。春には桜が咲き誇り、町内を見渡せるビューポイントともなっていますので、ぜひ一度お越しいただきたいです。

【齋藤案内人と行く歴史散歩】
西山城を徹底解説

復元されたばかりの本丸を見学しながら、桑折西山城の歴史を詳しく紹介します。

日時▶**4月21日㊐13:30**～（観音寺集合）
3月13日㈬より受付開始　【参加費無料】
申し込み・問い合わせ▶生涯学習課　☎582-3129

昨年の本丸見学会の様子

町史でさらに詳しく

桑折西山城の歴史や構造の特徴については、『桑折町史』に詳しく述べられています。

『町史』は桑折町文化記念館（種徳美術館）で購入できます。また、「よも～よ」で借りたり、閲覧したりもできます。

伊達家家紋「竹に雀」は伊達家より使用許可済